

# 令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 6	公益目的事業 16
主査名	苦瀬博仁 流通経済大学教授	
研究テーマ	交通分野におけるロジスティクス研究の役割と範囲	
<p>本研究の目的は、学際分野であるロジスティクス研究の特徴を、周辺研究分野との比較の中で明らかにすることである。ここでは、周辺研究分野として交通論と経済学をとりあげる。</p> <p>ロジスティクスは、企業内と企業間、施設内と施設間、地域内と地域間などにおいて、商流と物流を対象とする学問と考えることができる。そのため、ロジスティクスという研究分野は、交通論や経済学をはじめとして、都市・交通計画、経営学やマーケティング、医療や災害など、さまざまな学問分野と密接な関係がある。しかしながら、ロジスティクスや物流に関する研究が重要とされながらも深化が不十分だった理由として、周辺学問分野との接点が不明確だったことや、民間企業活動に深く関係することがあげられる。このため研究分野として、とっつきにくい印象があったことは否めない。</p> <p>これらを解決するためには、ロジスティクスと周辺研究分野との間での、相互関係や役割分担を明確にする必要がある。これにより、周辺研究分野からの共同研究も期待できるとともに、ロジスティクス研究そのものの発展も期待できると考えられる。</p> <p>以上の問題意識にもとづき、本研究プロジェクトでは以下の2点について取り組む。</p> <p>第1が、ロジスティクスの学際的な特徴の整理である。すなわち、ロジスティクス研究と周辺研究分野の特徴を比較しながら、両者の相互関係とロジスティクスの学際的な特徴を明らかにする。</p> <p>第2が、各研究分野におけるロジスティクスの役割と範囲の導出である。すなわち、人や物の移動およびそれに関わる課金やインフラなどを研究対象とする交通論において、ロジスティクス研究の位置づけ及び役割を明らかにする。また、企業と消費者の経済活動、産業行動を研究対象とする経済学において、ロジスティクス研究の位置づけ及び役割を明らかにする。以上の研究を通じて、学際分野としてのロジスティクス研究の特徴と役割を明らかにするとともに、学問領域を明確にすることで、ロジスティクス研究の発展の基礎とするものである。</p> <p>研究の方法は、本研究プロジェクトは、ロジスティクスにも詳しく、かつ周辺研究分野（交通論、経済学、都市・交通計画、経営学、マーケティング、医療、防災など）でも活躍している研究者で構成している。そして、以下のような方法で研究分野の特徴を明らかにしていく。最初に、メンバーの認識の共有化のために、従来のロジスティクス研究の概要と主要な知見について、整理して報告する。次に、各周辺分野の立場から、第1に、ロジスティクスの周辺研究分野（交通論、経済学など）の基本的な研究体系と明らかにする。第2に、周辺研究分野の研究体系におけるロジスティクスの役割を明らかにする。第3に、周辺研究分野からみたロジスティクスの課題と解決方法を明らかにする。そして、以上の議論の内容をもとに研究成果をまとめることとしたい。</p>		